

擦文文化の回転式銚頭

前 田 潮

論文要旨

アイヌ文化の直接の祖先と目される擦文文化は、鮭鱒類の捕獲やエゾシカなどの陸獣類の狩猟、栽培穀物を含む植物の採集を生業とする内陸河川型の生活基盤に立っているとされている。このためその海洋資源の利用については、研究者の関心は必ずしも高いとはいえない状況である。一方、アイヌ文化の民族誌、出土資料とともにアイヌ民族のもとで回転式銚頭を用いた海獣狩猟が発達を見たことを雄弁に語っている。これは、彼ら自身の生活資源としての利用が発達したことと共に、鉄製品、漆器類など日本製品に対する交換の対価物として海産物の経済的価値が高まったことが相俟ったできごとと見られ、その歴史的意義の大きさは重視すべきものがある。

アイヌ文化の海獣狩猟の発達の基礎を築いたのは擦文文化であり、この文化の回転式銚頭はその技術的発達の経過を辿る好資料といえる。ここでは、従来散発的に発表され、相互の関係が明確でない擦文文化～アイヌ文化の銚頭について型式論的整理を行い、系統、年代関係など海獣狩猟技術の発達の過程を明確にした。また、その結果を踏まえて擦文文化の海獣狩猟の歴史的な位置づけに対するいくつかの見通しを示した。